

## &lt;実践事例&gt;

# 授業におけるワークショップスキル研修の成果と課題 —法学部アクティブラーニング科目「ファンダメンタル・セミナー」 での実践報告—

大谷 麻予<sup>1</sup>・鈴木 陵<sup>1</sup>・耳野 健二<sup>2</sup>

F 工房は、2009 年の開設以来、現場に即した形でファシリテーションが普及することを目指して、学内で多様な支援を実施してきた。2015 年秋学期には、法学部教員の依頼のもと、同学部で開講される 1 年次対象の演習科目「ファンダメンタル・セミナー」において支援を行った。授業では「学生が自らワークショップを設計し、実施できるスキルを身につける」という到達目標のもと、F 工房が研修を 3 回実施した。その結果、支援の成果として以下の 2 点を得た。第 1 に、授業担当教員、ファシリテーションの専門性を持った職員、学生ファシリテータの三者が協働することで、研修内容がより充実し、豊かなものになったことである。第 2 に、研修終了後に、研修内容を体系化した冊子「ワークショップ初心者キット」を作成し、教材として配布したことである。このことにより、学びから実践へ移行するための手がかりを学生に提供できた。この冊子は、ワークショップの実践方法の基本型をまとめた形で提供するものであり、実際に学生がワークショップを実施する際の手引きとなるものである。以上をふまえ、本稿では、授業支援に至った経緯、研修の内容、上記冊子の概要、研修の成果と課題について報告を行う。

**キーワード：**ワークショップ、アクティブラーニング科目、教員・学生・職員の協働、  
研修内容の体系化、教材開発

## 1. はじめに

本稿は、2015 年秋学期より開講された、法学部法律学科 AL (アクティブラーニング) 科目群「ファンダメンタル・セミナー」において、教育支援研究開発センター F 工房が実施した研修の内容及び成果と課題についての報告である。2015 年 6 月に担当教員からの依頼を受け、担当教員と F 工房職員 2 名、F 工房で活動する学生ファシリテータ 1 名で研修内容の検討を行った。研修は、「学生自らが、ワークショップの設計と運営ができるようになる」ことを目標とし、合計 3 回行った。これらの研修は F 工房職員を中心に、ワークショップの体験とふりかえり、実際に設計するためのレクチャーを交えて実施した。また、全研修終了後には、研修の内容をまとめた冊子「ワークショップ初心者キット」(以下、「冊子」と表記する。)を作成し、学生に配布した。この冊子は、学生自らがワークショップを設計し運営する授業回において使用された。

以下の章において、順を追って科目の概要、依頼の経緯、研修の内容、冊子の概要、実施の成果

と課題についての報告を行う。

## 2. 対象科目と実施研修の内容

### 2.1. 対象となった科目と依頼の経緯

「ファンダメンタル・セミナー」(以下、本科目と表記する)は、1 年次春学期開講の「プレップセミナー」、「法律学入門」から、より専門的な科目への橋渡しを行う「アクティブラーニング科目」として位置づけられている。複数の教員が担当し、それぞれテーマを設定している。担当教員によって授業内容が異なる科目である。

担当教員のクラスは「みんなで考えよう、現代社会の重要問題」を科目の副題としている。履修学生は 25 名であった。プレゼンテーションとグループワークによって議論し、学習内容を深めることを目指す。主な到達目標は、与えられた問題について、「自分達が発表した内容を基に簡単なグループワークを設計し、実施することができる」である。

授業の第 1 パート (第 1 回～5 回授業) では、3

<sup>1</sup> 京都産業大学 教育支援研究開発センター F 工房、<sup>2</sup> 京都産業大学 法学部

～4人グループを作り、参考文献「ディベートのすすめ（著：望月和彦）」を手がかりに各グループでテーマを選び、15分のプレゼンテーションが行われた。

F工房は、第2パート（第6回～8回授業）を担当し、ワークショップ設計・運営のための基礎的なトレーニングを行った。研修の目的は、ワークショップ運営スキルを学生が身に付け、第3パート（第9～15回授業）において、各グループがワークショップの運営ができるようになることであった。

## 2.2. 研修プログラム

ワークショップは、「体験型講座」、「参加体験型のグループ学習」として欧米から世界中に広がっている（中野, 2001）。ワークショッププログラムの展開の仕方は多様であるが、この授業においては、「アイスブレイク」、「プレゼンテーション（話題提供）」、「ディスカッション」、「全体共有」、「ふりかえり」の構成で行うこととした。研修は、研修そのものをワークショップと位置づけ、講義、体験、作業時間、実践、ふりかえりを組み込んだ（図1）。

F工房職員、学生ファシリテータは、学生がワークショップにおけるファシリテータのイメージが持てるようにファシリテータとして振る舞った。また、担当教員は、これら二者と連携しながら、授業全体の進行・運営を行った。

研修日程	主な到達目標	主なプログラム
11月6日	・ワークショップとは何か、内容や意義について理解する ・第1回プレゼンテーションを振り返る	・ワークショップ体験と講義 ・発表グループでの振り返り、準備作業
11月13日	・ワークショップにおけるファシリテータの役割（考え方や技法）について理解する ・11月20日にむけての内容を詰める	・ファシリテーションの体験と講義 ・発表グループでの振り返り、準備作業
11月20日	・実際にミニワークショップを実践し、ふりかえる ・第2回プレゼン+ディスカッション（＝ワークショップ）の設計&運営に活かす	・ミニワークショップの実践 ・ふりかえり

図1. 研修全体の流れ

### 2.2.1. 第1回研修（2015年11月6日 第6回目授業）

第1回の実施内容は以下である。

- 1) 体験：学生が、学生ファシリテータの運営によるアイスブレイクとグループ分けを体験した。
- 2) 講義：F工房職員がワークショップの意味や特

徴、使われている事例、運営の形式や方法についてのレクチャーを行った。

- 3) 体験：学生が第3パートで実践することになるワークショップの一部（ディスカッションと全体共有）を体験した。
- 4) 講義：F工房職員がワークショップにおけるファシリテータの存在と役割、ワークショップのデザインの仕方について紹介した。
- 5) 作業：学生が第1パートのグループになり、プレゼンテーションのふりかえりを行い、第8回授業で行うミニワークショップの運営にむけて内容の検討を行った。

### 2.2.2. 第2回研修（2015年11月13日 第7回目授業）

第2回の実施内容は以下である。

- 1) 講義：F工房職員がファシリテーションの定義を説明するとともに、身近にいる人からファシリテータのイメージが喚起できるよう説明を行った。
- 2) 体験：次に、学生が2つのTV番組を題材に、司会者の振る舞いや、場の様子、参加者の様子をファシリテーションの視点から分析し、グループで共有・意見交換を行い、その後全体に向けて発表した。
- 3) 講義：F工房職員が学生の発表内容を題材に、この授業におけるワークショップに必要なファシリテーションのスキルを紹介した。
- 4) 作業：学生が第3回研修にむけて、第1パート時のグループでミニワークショップの準備を行った。プレゼンテーションの内容が、ディスカッションを行う際にどのように話し合いに反映されるのかを検証するため、ディスカッションの流れを反映したワークシートを使用した（図2）。プレゼンテーション内容の中で、話し合いの材料になるものをシートに書き出し、プレゼンテーションの情報の過不足について把握し、修正を行った。

具体的には、参加者がテーマに対する賛否を検討するためのプレゼンテーションの情報に偏りがないか、ディスカッションが滞りそうな部分や、グループファシリテータとして入る際に、どのような問いや知識を提供するとよいかについて検討する機会とした。その後、役割分担（プレゼンテーション、グルー

ディスカッションシート	
( 班/名前 )	/ワークメンバー
賛成/理由	反対/理由
自分の考える理由 (賛成意見・反対意見それぞれ納得できる部分とその理由。それを踏まえて自分はどうか考えるか)	
テーマに対する疑問 (発表班に聞いてみたいこと等)	
グループディスカッション	
個人ワークの共有・ディスカッション グループディスカッション内容、合意できた部分できなかった部分、その理由等)	
発表にむけて：グループとしての結論と理由、その他 (出た話、発表班に聞いてみたいこと等)	

図 2. ワークシート

プファシリテータ役、観察者役、参加者役)を行った。

### 2.2.3. 3 回研修 (2015 年 11 月 20 日第 8 回目 授業)

第 3 回の実施内容は以下である。

- 1) 講義：F 工房職員がミニワークショップ実践のタイムテーブル、実践時に使うシートの説明を行った。
- 2) 実践：学生が 2 つまたは 3 つのグループを合わせて、順番にミニワークショップの実践を行った。終了後は運営班、参加班それぞれ異なる項目が記載されたふりかえりワークシートに気づきを記入し、後に共有・意見交換を行った。最後に、全 3 回の研修における学びをふりかえるシートを各自記入した。

### 2.3. 「ワークショップ初心者キット」冊子の概要

研修終了後に、学びから実践へ移行するための手がかりとして、研修内容を体系化した冊子「ワークショップ初心者キット」を作成し、第 9 回授業にて配布した。冊子は、ワークショップの実践方法の基本型をまとめた形で提供するものであり、実際に学生がワークショップを実施する際の

手引きとなるものである。

冊子の構想は、研修内容の打合せの中で生まれた。「英語を学ぶ際、挨拶等の基本の型 (フレーズ) から学習するように、ワークショップも基本の型から学べるようなものがあるとよい。スキルが定着しやすくなり、その後、あらゆる場面で応用できる。」という担当教員の意見をふまえ、教員と協働で作成した。

冊子は、「ワークショップ初心者キット 2015」と題し、「学び編」と「実践編」を作成した。「学び編」は、レクチャーしたものを中心にまとめ、「実践編」はワークショップ実践時のワークシートをまとめたものである。授業向けに作成した教材を修正し、他の場面でも応用できるようにした。

冊子の構成は以下である。

- 1) ワークショップとは  
ワークショップの定義や特徴、ファシリテータの定義や役割について解説した。
- 2) ワークショップの方法 (事前準備)  
ディスカッションテーマを選定する際のポイント、タイムテーブルの作り方、当日に向けた役割分担の決め方について解説した。
- 3) ワークショップの方法 (当日の運営)  
プレゼンテーションを行う際のポイント、グループにおいてファシリテータとして振る舞う際に必要となるスキルを解説した。
- 4) ワークショップの方法 (ふりかえり)  
ワークショップ実施後のふりかえりの意義やポイントを解説した。
- 5) 当日に向けての最終チェック  
ワークショップ実践の直前に注意すべき点をチェックリスト方式で紹介した。
- 6) 参考文献
- 7) おわりに

### 2.4. 第 3 パート授業

研修終了後の第 3 パート (第 9 回目授業以降) では、新たに 5 人グループを結成した。第 9 回では「ワークショップ初心者キット」冊子を配布し、ワークショップの準備が行われた。第 10 回は準備作業、第 11 回以降で各グループによるワークショップ実践がなされた。

ワークショップは 60 分である。終了後は、ワークショップのふりかえりと意見交換、運営グループのふりかえり内容の共有と教員からのフィードバックが行われた。F 工房は、第 3 パートの中で、1 度授業見学に行き、実施したワークショップに



対するフィードバックを行った。

### 3. 研修の効果の検証

研修の効果を検証するために学生に対してアンケートを実施した。アンケートは合計2回行った。1回目は研修全体のふりかえりを兼ねたアンケートであり、第3回研修終了後に行った。2回目は、全15回の授業が終了した後に、授業アンケートという形で実施した。表1、表2はそれぞれのアンケートから、研修や冊子に関して書かれた項目を抜粋したものである。それらのうち、具体的な言葉で回答された履修者の記述の一部を選び、そのまま表記している。1回目のアンケートは出席者20名分、2回目は出席者22名分である。

### 4. 考察

アンケートの結果を踏まえ、研修及び冊子の成果と課題について考察する。

#### 4.1. 成果

##### 4.1.1. 学生の変容

表1のアンケートの記述より、体験が組み込まれた研修を受ける中で、ワークショップを実施する側になる当事者意識が芽生えている様子が窺えた。レクチャーによって役割や必要なスキルのイメージを掴み、実践する中で理解し、実行できたこと・できなかったことに気づき、次回の対策につなげるなど自発的な動きが見られた。表2の「到達目標の達成度」の結果や、第3パートにおける

表1. 1回目実施アンケート

質問項目	回答
問1：第1回目研修での発見、学び、印象に残っていること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップという言葉は初めて知ったし、気づかない間に自分もワークショップをしていることがわかった</li> <li>・そもそもワークショップ自体がなんであるか知らなかったのでその内容や意義を理解することができた。</li> <li>・アイスブレイクなどをやり、緊張がほぐれ雰囲気がよくなることでワークショップのときに参加者同士で話しやすく意見交換できることがわかった</li> </ul>
問2：第2回目研修での発見、学び、印象に残っていること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像を見てその人の話の展開や環境などそれに合わせてワークショップする事が大事だと学んだ</li> <li>・ファシリテータの存在の重要性や役割についてもわかった。同じファシリテータの役割を担っていても、やり方や進め方など違いがありそれぞれの良さがでていた。ファシリテータという役割のすごさを実感できた。</li> <li>・普段からよく見ているなじみ深いテレビ番組からファシリテーションの事例を紹介してもらい、内容を十分に理解することができた。</li> </ul>
問3：第3回目研修での発見、学び、印象に残っていること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に自分たちのプレゼンを基にワークショップをしてみると、なかなか思い通りにはいなくて難しかった。ファシリテータを初めてやってみて、スムーズな進行などは意識したが実際に行動に移すことはなかなか難しかった。</li> <li>・実際にワークショップを行うことにより、頭の中でイメージしていたものを表現できた。さらに参加者として体験したことで自分たちのワークショップでの欠点を見つけることができた。</li> </ul>
問4：研修を踏まえて、第3パートで意識すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップを展開しやすいプレゼンづくり</li> <li>・聞き手の反応などを見ながら話を進めていく。ワークショップへつなげられるように</li> <li>・教えてもらったワークショップやファシリテータのポイントやコツを意識してやってみたが、なかなか思い通りにはいかなかった。実際にやってみることが大切だと思ったので練習をしかりしたい。</li> </ul>
問5：研修についての感想や意見（よかった点）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシリテータの見本となっていたのでイメージが付きやすくなってよかった。</li> <li>・基本的に私たちの自主性にまかされていたので自分達で行動しなければという自覚がめばえた</li> <li>・普段の大学での学びでは学べないことをたくさん学べた。特にアイスブレイクとワークショップはとても勉強になった。</li> </ul>
問6：研修についての感想や意見（改善点、アドバイス）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回、初めてファシリテータや観察といった役割をやってみて難しかった。初めてのことなのでとまどうことも多かった。もう少し練習する時間を確保してほしいと思った。そうすれば、もう少し上手にできたかもしれない。</li> <li>・パワーポイントが多くてどこが重要なのか少しわからないところがあった。</li> <li>・パワーポイント1枚あたりの文字数が少し多すぎたように感じました。</li> </ul>

学生の様子より、「学生自らがワークショップを設計し、実施できるスキルを身に付ける」という到達目標は概ね達成できたと考えられる。

これらの成果の要因として、学んだことをもとに、今後の実践に目が向けられるようにレクチャー・体験・ふりかえりを織り交ぜた研修にしたこと、F工房職員や学生ファシリテータがファシリテータのモデルとして振る舞っていたことが考えられる。実際に「目で見える」、「やってみること」が学生の学びを支援したといえる。

#### 4.1.2. 冊子の効果

表2の冊子に関する記述からは、時間配分や進行内容、資料内容を検討する際のガイドとして冊子が役に立った様子が窺えた。ワークショップを実際に設計・運営する際に、手順や話す内容等、具体的な進め方が明記されたものがあると作業がしやすくなるようだ。

第2パートのミニワークショップや、第3パートでのワークショップにおいては試行錯誤しながらも、冊子をアレンジしながら運営している様子が見えてきた。特に、プレゼンテーションやグループファシリテーションにおいて、話の組み立て方

や、質問の仕方などの工夫が見られた。

#### 4.1.3. 三者の協働による研修内容の充実

学生の学びを支援する上で、授業担当教員、ファシリテーションの専門性をもった職員、学生ファシリテータの協働は不可欠であった。今回の授業支援において、三者の協働によって研修内容が充実したことも成果の1つである。それぞれのこれまでの経験と知見をもとに、意見交換をしながら、盛り込むプログラムとその順番を検討することができた。打ち合わせでの意見交換や、事前準備や当日実施において、それぞれの持ち味が発揮された。ここでは、それぞれが果たした主な役割を表3に提示する。

#### 4.2. 課題

表1のアンケートの結果によると、学生がワークショップ実践の難しさを感じている様子の記述がいくつか見られる。授業内での練習時間を確保するとともに、学生の困りごとを軽減するためにその場でより細やかにアドバイスする必要があった。

パワーポイントの1枚あたりの文字量および、スライドの枚数が多く、ポイントが掴みにくい部

表2. 2回目実施アンケート

質問項目		解答
問8-2（択一式） 到達目標の達成度	「自分たちが発表した内容を基に、簡単なグループワークを設計し、実施することができる」という到達目標を達成することができた。	5. 強くそう思う：10名 4. そう思う：11名 3. どちらともいえない：1名 2. あまりそうは思わない：0名 1. そう思わない：0名 0. 未記入：0名
問10-1（自由記述） 「ワークショップ初心者キット」冊子を使用して感じた感想（良かった点、改善点、役に立った点など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手探りな状態に導きを与えてくれるような素晴らしいものであった。</li> <li>・時間配分や資料作成に大きく役立った。</li> <li>・ワークショップの概要がわかりやすくまとめられており、また進行の流れなども具体的に書いてあったので準備段階で滞ることが少なかった。</li> <li>・進行するのに非常に役立った。司会進行役としてはそれを基に進行できたので良かった。</li> <li>・プレゼンする上での注意点や時間配分、また聞き手の時のワークシートなど、注目する点やまとめる流れをつかむことができたので良かった。</li> </ul>	

表3. 研修の企画、実施において果たした主な役割

教員	職員（F工房）	学生ファシリテータ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修、冊子内容についてフィードバック（授業の内容との整合性のチェック等）</li> <li>・研修時に、学部専門的な内容の部分について、学生にレクチャーやフィードバックを行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・F工房が重視する「ふりかえり」を組み込んだ設計づくり</li> <li>・ファシリテータとして必要なスキルの提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修、冊子内容についてフィードバック（学生の目線で資料のチェック等）</li> <li>・アイスブレイクの意義について学生の視点より解説</li> </ul>

分があった。類似した内容を何度か提示している部分があり、提供内容の改訂の必要がある。

冊子については、アンケートには改善の記載はなかったが、研修内容と同様、改訂の必要がある。

また、F工房職員による第3パートの見学が1度であったため、実践した学生へのフィードバックが十分であるとはいえない。今後、このような研修を実施する際は、実施後のフィードバックができる機会の確保についても検討する必要があると考える。

## 5. まとめ

研修内容と連動した冊子を作成したのはF工房において新たな取り組みであった。これまでのF工房の取り組みを活かしながら、三者で協働し、到達目標に向けて内容を充実させられたこと、および作成した冊子が学生のワークショップ設計、実践の一助となったことは大きな成果である。

一方で、提供する情報の取捨選択や実施後のサポートについてはまだ改善の余地があると考え

る。今回の取組で得られた以上のような成果と課題を糧とし、今後のF工房の業務を進めていきたい。

## 謝辞

本取組に様々な形で協力してくださった、授業履修者の皆様、元学生ファシリテータ赤見文雄様、F工房職員中尾麻衣様、宮崎知美様、文化学部池田哲郎先生、共通教育推進機構中沢正江先生、教育支援研究開発センター足立薫様、文化学部鬼塚哲郎先生、法学部久保秀雄先生、株式会社学匠中西勝彦様に厚く感謝申し上げます。

## 参考文献

中野民夫(2001)ワークショップ—新しい学びと創造の場. 岩波新書, 東京

---

# Outcomes and Problems Found in a Facilitation-training Workshop — A Practice in a “Fundamental Seminar” of the Faculty of Law —

---

Asayo OTANI<sup>1</sup>, Ryo SUZUKI<sup>1</sup>, Kenji MIMINO<sup>2</sup>

The facilitation studio (‘F-Kobo’) of Kyoto Sangyo University has been supporting a variety of courses throughout the University to spread facilitation since 2009. In the 2015 fall semester, at the request of the professor in charge we supported a “Fundamental Seminar,” which is an introductory course designed for first-year students of the Faculty of Law. We have organized three consecutive facilitation-training programs for the enrolled students, so that they may learn how to plan and hold the workshops scheduled in the course.

As a result, we have achieved the following two outcomes. First, the content of the training programs has been enhanced due to the cooperation of the professor, student-tutors, and an expert facilitation staff. Second, we have distributed a booklet, “A Workshop Kit for Beginners,” which systematizes the contents of the training programs.

We have succeeded in providing the enrolled students the means to hold a workshop. The booklet provides the basic methods to plan and hold a workshop, and serves as a reference when the students actually implement the event. This paper reports the contents of the training programs, the outline of the booklet, and the outcomes and problems found during their implementation.

**KEYWORDS:** Workshop, Active-learning, Systematizing training contents, Development of teaching materials, Cooperation among staff, professors and student-tutors

---

2017年1月16日受理

<sup>1</sup> Facilitation Studio, Center for Research and Development for Educational Support, Kyoto Sangyo University

<sup>2</sup> Faculty of Law, Kyoto Sangyo University